

祝　　辞

卒業生、修了生の皆さん、本日はご卒業、ご修了、誠におめでとうございます。

今、皆さんは、この日を迎えるまでのさまざまな大学生活の場面を、思い起こされていることと思います。大学での学びを糧に、卒立つていく皆さんを社会に送り出すことは、宗門にとりましても大きな喜びであります。

昨年来、新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、皆さんの生活も、変化を余儀なくされる事態となりました。

マスクをしての「新しい生活様式」による日常がはじめり、多くの大学で授業がオンラインとなりました。見通しの立たない将来に不安を抱かれている方もおられるのではないか。しょ

一方で、このコロナ禍で立ち止まつてみることで、私たちは人生について深く考える機会を与えてされました。

昨年も、寺院の掲示板のなかから優秀作を選ぶコンテストが仏教伝道協会の主催で実施されました。1677作品のなかから大賞に選ばれたのは、熊本県の寺院の、世相を反映した次のような言葉でした。

「コロナよりも怖いのは人間だった。 神奈川県ドラ

ッゲストア店員」。

全國に緊急事態宣言が発令された、昨年の春のことです。品薄となつたマスクや消毒液をめぐつて皆が薬局に殺到し、買い占めや高額転売が問題となりました。また、人との接触により感染することが分かると、現場で懸命に対応に当たつておられる医療従事者の方や、感染された方への差別が起きました。これが、自分や周囲の人々の命が危機にさらされた途端、露呈した、自分本位にしか生きられない私たち人間の姿です。

感染症の影響により、多くの人が確かにと思っていた日常が、もうくも一変しました。このような毎日が来ることを、予想し得たでしょうか。

仏法は、「すべてのモノやコトは変化する」と教えます。人生は、いつ何が起きてもおかしくない現場なのです。すべての現象は変化している、「無常」であるにもかかわらず、周りも私もみな、いまここを不变だと思い誤ることから、変化は苦しみのもととなります。

皆さんは、大きな変化を実感すると同時に、これまで当たり前だと思つてきた生活、大学に通い、講義を受け、友人と会い、学問や部活動に励むことが、どれほどかけがえのない、尊い機会であつたかに気づかされたと思います。

私たちは、自分一人の力、人間の力だけで生きているのではありません。自然の恵みをはじめ、多くの方のご苦労、たくさんいのちのつながりの中で、原因や諸条件

が互いに関係しあい、縁つて起きている、「縁起」してい
る中で、共に生き、生かされて、生きているのです。

皆さんのがコロナ禍においてその一端を実感された、「無常」や「縁起」という事実こそが、この世のあるがままの真実なのです。物質的な豊かさや便利さをもたらしてきた人間の理性だけで、安心して過ごす日常をつくることはできません。コロナに感染した医師は、「いくら医学知識があつても、いつどうなるか分からぬ不安感は医者も同様です」と語っています。

変化する、その時々のすがたに執われない、さからわないように努める、自分のものを他人に与え、それを自慢しない、見返りを求めず、他人の苦しみ悲しみを自らの苦しみ悲しみとすることが出来る人になるよう努力してください。「おかげさまで、ありがとう」の、感謝の心を忘れてはいけません。

新型コロナウイルス感染症で、世の中が一変したこの

時代を経験したからこそ、皆さんは、変わらないこの世の実相、真実に教え導かれ、それぞれの生きがいや目標をもち努力精進どりょくしょうじんし、日々を精いっぱい生きていく人になつてください。

本学で学ばれた仏教思想や親鸞聖人のみ教え、仏さまのお悟りの智慧を依りどころとして生活するとき、どのような境遇にあっても、皆さんは、まさにこの世の実相、真実に基づく確かな安心のなかで生きぬくことができます。皆さんのご多幸たこうを念じます。本日は、誠におめでとうございました。

二〇二一（令和三）年 三月十五日

浄土真宗本願寺派 総長 石上 智康